小学校第４学年　社会科学習指導案

学習指導者　丸亀市立岡田小学校　松村　彩乃

１　単元名　　「自然災害からくらしを守る」

２　単元について

（１）本単元では、学習指導要領第４学年の(3)(ア)地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。」に関して設定された単元である。本単元では、平成 16 年の台風の被害を取り上げる。当時は SNS などの伝達機器が発達しておらず、情報の伝達に課題があった。また、川の堤防が低く氾濫が起こったり、住民の危機意識の低さから避難が遅かったりすることも課題であった。その課題を受けて、行政は SNS やホームページなどで早めの情報提供や自主防災組織と連携して災害への備えを行っている。そのような防災に関わる人々の働きや仕組みを理解することで子ども達の防災意識を高めることをねらいとした内容である。

（２）本学級児童 21 名へのレディネステストの結果は以下の通りである。

（実施日令和８年９月９日）

１	過去に香川県や丸亀市で起こった自然災害を知っていますか。	はい	３名	いいえ　18 名
２	防災への取組について知っていることはありますか。	はい	５名	いいえ　16 名
３	普段から防災への備えをしていますか。	はい	13 名	いいえ　８名

本学級では、過去に起こった災害や防災に向けた取組について知らない児童が多い一方で、各家庭での防災意識が高く、日頃から備えをしていることが分かる。

（３）本単元では、自然災害の中でも特に子ども達の身近で起こりやすい風水害について取り上げる。県や近隣の市の協力により風水害を未然に防ぐ努力をしていることを資料から読み取り、自分たちにできる自然災害への備えを考えられるよう指導したい。

本時は、県や市が災害に備えてどのような取組を行っているかを調べるために、資料を読み取る活動は欠かせないと考える。過去の災害時の課題を振り返った後、近年でも台風は変わらず来ているが、人的被害０になっていることを伝え、本時の課題設定を行う。課題に対する予想を立て、自分が調べたい資料を選べるよう県や市の取組の資料を準備し、自己選択する場を設ける。資料から県や市が住民のために備えをしていることに気付き、子ども達が学んだことを自らの生活に生かすことができるよう指導したい。

３　単元計画（総時数　７時間【本時５/７】）

（１）丸亀市や香川県には、これまでどのような自然災害や被害があったかを知る。・２時間

（２）過去の災害時の対応の仕方や課題について理解する。・・・・・・・・・・・・・２時間

（３）香川県や丸亀市、岡田では、どのような備えをしているか調べる。・・・・・・３時間

４　重点とする授業改善の視点

学習課題に対する子どもの反応を予測して資料を準備し、子ども達が自分の考えの根拠となる資料を選択できるようにする。

5　本時の学習指導（本時　5/7）

（1）目標

香川県や丸亀市の台風の被害が減っていることを踏まえ、その理由を知るために資料を読み取る活動を通して、香川県や丸亀市の取組を知ることができる。

（2）学習指導過程

段階	学習活動	児童の意識の流れ	教師の支援と評価
問題把握	1　課題を振り返る。	・平成16年の台風23号の時、丸亀市で想定外の川の氾濫や浸水被害があったね。 ・避難所の運営が大変だという課題があったね。	・香川県や丸亀市の備えに目を向けるために、過去の災害時の課題を県と市ごとに色分けしながら、補助黒板に提示する。
	2　学習課題を設定する。	**台風は変わらずきているのに、なぜ被害が少なくなっているのだろう。**	・香川県や丸亀市の取組に変化があったのかと疑問を持たせるために、台風は変わらず来ているが、人的被害が0になっていることをグラフで提示する。
見通し	3　予想する。	川の水が溢れないような工事をしたのかもしれないと思う。 SNSなどで避難情報を早く伝えられるようになったのだと思う。 平成16年の台風があったから、地域の人が備えをするようになったのかな。	・香川県や丸亀市の資料から調べたいものを選べるよう資料を準備し、自己選択できる場を設ける。
	4　災害に備えた取組を調べる。		〈個〉資料選択が難しい児童のために、机間指導を行い、適切な資料選択ができるよう助言する。
対話	(1)グループで考える。	川の氾濫や浸水を防ぐために、県内の多くの川で護岸工事をしたんだね。 香川県では、「かがわWebポータル」というサイトで災害情報や備え方を知ることができるね。 丸亀市では、「丸亀市防災マップ」があり、家に置いておくと何を備えるべきか分かるね。	・丸亀市が住民に向けた取組を行っているという意識をより高めるために、丸亀市防災危機管理課の方からのメッセージを伝える。
	(2)全体で共有する。	香川県や丸亀市では、住民が災害に備えたり、災害後避難したりできるような取組が多くある。	〈評〉資料を読み取ることを通して、県や市の取組について理解を深め、自らの生活に生かそうとすることができる。≪ワークシート≫
まとめ	5　まとめをする。	**県や市が、川の工事をお願いしたり、市民が情報を得やすいようにしたり、防災意識を高めたりしたことで、被害が減った。**	・授業の冒頭に確認した3つの課題に立ち返り、香川県や丸亀市による取組が以前の課題を克服していることを確かめた上で、災害が起こったら大丈夫そうかを考えさせ、前時と本時での大丈夫かの度合いを比較させる。
振り返り	6　振り返る。	・平成16年の課題を全て克服しているから、人的被害が少なくなったのだと分かった。 ・平成16年の課題を全て克服しているから、安心できると思った。 ・防災意識を高めるために、「LINEで防災」など新しい取組をしているのがすごいと思った。 ・香川Webポータルの中には避難情報やハザードマップがあったので使ってみようと思った。	・今年度の取組として、「LINEで防災」を紹介して、住民の防災意識向上のために尽力していることを実感させる。 ・振り返りの中に県や市の取組を活用しようとする意見があれば取り上げ、次時に繋げる。